

## 前回審議会で委員から質問のあった事項への回答

質問事項	回答																								
<p>平成24年度にその他環境対策事業として実施した「森林管理長期委託制度の導入調査」の事業内容とその効果について教えていただきたい。</p>	<p>森林管理長期委託制度の導入調査とは、山林所有者の抱える課題と森林資源の活用を一体的に捉え、山林の管理から木材販売までを行う「森林管理長期委託制度」導入の可能性を調査するとともに、木質ペレットなど再生可能エネルギーの製造・普及につながる研究・検討を行ったものである。</p> <p>具体的には、山林所有者と森林組合において30年間の経営契約を締結し、境界の明確化・保全、森林施業や木材販売等の山林経営を森林組合が担い、利益を山林所有者に還元しようとするものである。</p> <p>契約期間など、様々な課題があり、実際に導入はされていないが、効果としては、長期委託期間について深掘りして検討できたほか、森林法の一部改正により24年4月から運用されている森林経営計画制度（注）を推進するための方向付けとなった。</p> <p>（注）森林経営計画制度とは、森林所有者又は森林の経営の委託を受けた者が、単独又は共同で森林の施業や路網整備、森林の保護等に関する5年間の計画を作成し、市町村長の認定を受ける制度</p>																								
<p>有料化制度実施前の不法投棄の件数を教えていただきたい。</p>	<p>有料化制度実施前の不法投棄の件数は、以下のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="889 1299 2110 1466"> <thead> <tr> <th colspan="5">有料化実施前</th> <th colspan="3">有料化実施後</th> </tr> <tr> <th>19年度</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>…</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>305件</td> <td>291件</td> <td>295件</td> <td>249件</td> <td>197件</td> <td>116件</td> <td>…</td> <td>40件</td> </tr> </tbody> </table>	有料化実施前					有料化実施後			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	…	28年度	305件	291件	295件	249件	197件	116件	…	40件
有料化実施前					有料化実施後																				
19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	…	28年度																		
305件	291件	295件	249件	197件	116件	…	40件																		

ごみ減量対策事業等とその他の環境対策事業に充当した金額の割合を示していただきたい。

ごみ減量対策事業等とその他の環境対策事業に充当した金額の割合は、以下のとおりである。

	24年度	25年度	26年度	27年度
ごみ減量対策事業	50.8%	47.0%	44.5%	45.4%
その他環境対策事業	49.2%	53.0%	55.5%	54.6%

家庭ごみ一袋あたりに含まれる資源化物の割合について、有料化以前のデータも示していただきたい。

家庭ごみの組成調査は平成19年度から隔年で実施しており、有料化実施年度以降は、毎年度実施している。組成調査を実施していない20年度と22年度を除く資源化物の割合およびその内訳は以下のとおりである。なお、端数処理の関係で内訳の合計が一致しない場合がある。

家庭ごみ一袋あたりに含まれる資源化物の割合の内訳を示していただきたい。

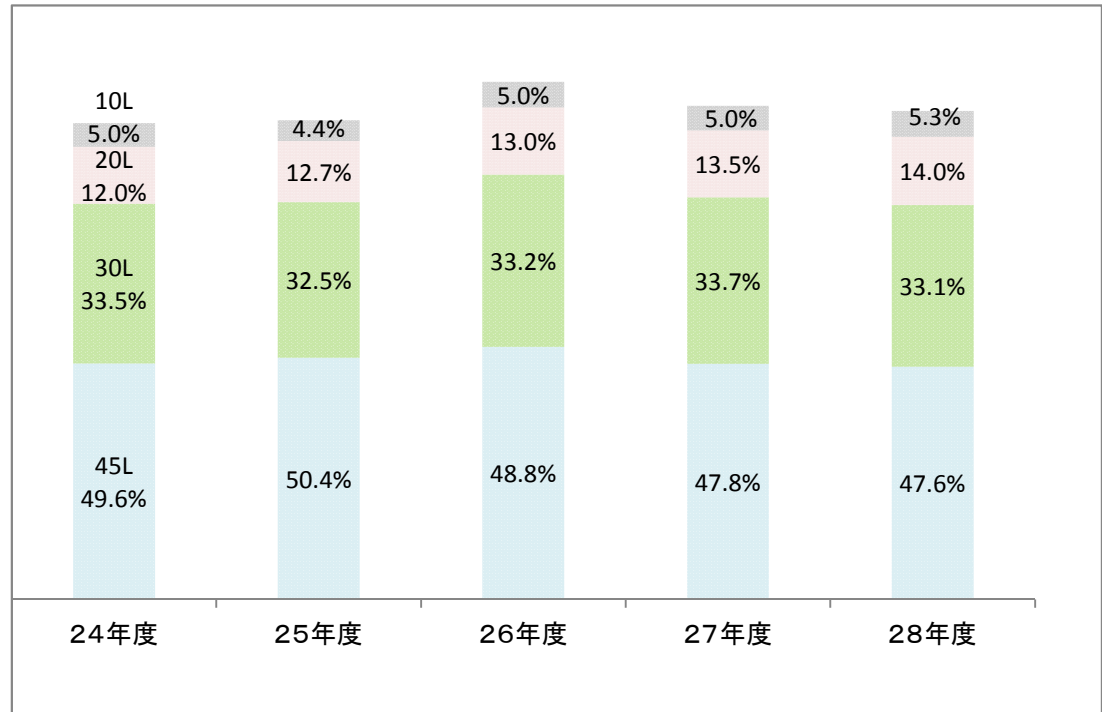
	19年度	21年度	23年度	24年度	25年度
資源化物の割合 (内訳)	15.0%	12.7%	12.8%	12.2%	11.7%
紙類	14.1%	11.6%	11.7%	10.8%	10.3%
空き缶	0.2%	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%
空き瓶	0.3%	0.6%	0.5%	0.7%	0.5%
ペットボトル	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
金属類	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%

	26年度	27年度	28年度
資源化物の割合 (内訳)	10.4%	11.7%	11.9%
紙類	9.1%	10.4%	10.9%
空き缶	0.2%	0.2%	0.1%
空きびん	0.5%	0.7%	0.5%
ペットボトル	0.3%	0.1%	0.2%
金属類	0.3%	0.3%	0.2%

有料化制度実施前後においてごみ袋のサイズごとの販売枚数がどのように推移しているか示していただきたい。

有料化実施前のごみ袋のサイズごとの販売枚数は、本市で関与していないため把握していない。有料化実施後の販売枚数は以下のとおりである。なお、端数処理の関係で割合の合計が100%にならない場合がある。

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
10 <sup>リットル</sup>	639,370枚 (5.0%)	564,650枚 (4.4%)	693,410枚 (5.0%)	662,670枚 (5.0%)	695,420枚 (5.3%)
20 <sup>リットル</sup>	1,533,330枚 (12.0%)	1,640,920枚 (12.7%)	1,811,210枚 (13.0%)	1,799,310枚 (13.5%)	1,835,660枚 (14.0%)
30 <sup>リットル</sup>	4,298,070枚 (33.5%)	4,195,180枚 (32.5%)	4,631,770枚 (33.2%)	4,480,960枚 (33.7%)	4,356,680枚 (33.1%)
45 <sup>リットル</sup>	6,355,030枚 (49.6%)	6,505,830枚 (50.4%)	6,805,550枚 (48.8%)	6,346,880枚 (47.8%)	6,267,450枚 (47.6%)
合計	12,825,800枚	12,906,580枚	13,941,940枚	13,289,820枚	13,155,210枚



生ごみは、十分に冷凍して水切りした方が減量に結びつくのか。

生ごみを凍らせても減量の効果は低いと考えられる。  
 生ごみの重量を減らすためには乾燥させることが一番効果があるが、手間がかかることから、本市では水切りのお願いをしているところである。